武雄が生んだエリート。

山口（やまぐち） 尚芳（ますか）

歴史の教科書で誰もが一度は聞く岩倉使節団の一員。そのメンバーの中では地味な存在ですが功績は計り知れない人物。

薩長同盟成立にも貢献

1839年誕生。幼い頃から学問に優れ、茂義にも一目置かれていました。

15才の時、茂義の命で長崎に赴き蘭学と英語を学んだのちに上京し、倒幕運動の中心となった公家の岩倉具視に接近したほか、薩摩藩と長州藩の志士とも交流し、薩長同盟の成立にも奔走したと伝えられます。

▲岩倉使節団の主要メンバー（武雄市蔵）
左から、木戸孝允、山口尚芳、岩倉具視、伊藤博文、大久保利通。

世界を見て、日本を変えた！

明治政府では、外国事務局御用掛、大阪府判事試補、東京府判事、外国官判事など、要職を歴任。

さらに1871年には、岩倉使節団の全権副使として木戸孝允・伊藤博文・大久保利通らと共に米・欧の約20カ国を、1年10カ月かけて回覧しました。

この欧米回覧は西洋文明の視察、調査、幕末に日本が西洋と結んだ不平等条約改正の予備交渉を目的としており、近代化のきっかけを築きました。

帰国後、山口は初代の会計検査院長に就任したほか、貴族院議員に選ばれるなど中央政府の中で注目される活躍をしました。

有名高官として知られ、月給500円という高額の給与をもらっていました。（当時の500円は、庶民が一生暮らせたほどの高額なお金です！）

◀山口尚芳サイン皿【複製】（武雄市蔵）
岩倉使節団がイタリアのリチャード・ジノーリ・ドッチャ磁器製造工場訪問時に記念に署名したもの。

◀「改正勅奏官等並びに人名一覧」（個人蔵）
有名高官に名を連ねる山口。

▲写真：ステレオビュー（武雄市蔵）
山口が欧米回覧の土産として持ち帰ったとされる。

故郷武雄でも大活躍

1874年、江藤新平、島義勇を中心とする佐賀の乱が起き、武雄の立場が危うくなった際も、陰で山口が活躍しました。

佐賀の乱では、佐賀の反乱軍からの強い要請に抗し切れなかった武雄は士族団64名を出兵させます。

一方、山口は政府軍を率いて佐賀に入り、乱の鎮圧に努めました。

佐賀の乱鎮圧後、武雄は罪を免れることができましたが、それは政府への謝罪文草案の作成に関わるなど、山口の奔走があったためです。

山口は忘れられがちな存在ですが、佐賀の乱後の政府と佐賀の間を取り持った人物であり、日本の近代化にも貢献した存在だったのです！

※佐賀の乱　征韓論【朝鮮国との戦争によって開国を促そうという考え】を唱え政府に反対する江藤新平、島義勇らを筆頭とした反乱軍と政府軍との戦い。

▶▶Pick up

山口尚芳の足跡をたどってみよう！

花島公民館
（武雄町大字永島 14396）

山口の屋敷跡地で、かつて太政官屋敷と呼ばれた。毎年 1 月 12 日に山口をたたえる範蔵まつりが行われる。

玉垂神社
（武雄町大字永島 14724）

神社のそばに山口を祀った墓がある。毎年 1 月 12 日には、地元の方による法要が営まれる。

医学の革命者。

中村（なかむら） 涼庵（りょうあん）

江戸時代に多くの人々を恐怖に陥れた伝染病「天然痘」に、最先端の医療で立ち向かった名医。

医学の道一筋！

1809年誕生。代々医者の家系だった中村は自身も医者を志し、15歳の時に京都で4年間医学を学びます。

その後、武雄鍋島家の家臣として茂義に仕え、長崎に派遣を命じられたことをきっかけに、シーボルトの門下で先進の西洋医学を学びました。

そして、当時死亡率の高い病として人々に恐れられていた伝染病「天然痘」への免疫をつける種痘（しゅとう）の研究に力を注ぎました。

▲当時の種痘の様子がわかる種痘器具（武雄市蔵）

天然痘に立ち向かったヒーロー

人間の身体には、ウイルスが入ってくると、抗体をつくり出して追い出そうとする免疫機能があり、一度抗体ができれば同じ病気にかかりにくくなります。種痘はこの機能を応用しています。

当時日本では本格的な天然痘への対策が十分ではありませんでしたが、西洋では天然痘にかかった牛のウミから取った菌（牛痘）を、人に接種して天然痘の抗体をつくる牛痘種痘法が普及していました。この牛痘種痘法は安全性が高い方法として画期的でした。

西洋医学を学ぶ中で牛痘種痘法の知識を得た中村は、武雄で初めて牛痘種痘法を試み、成功させます。

一般には1849年に佐賀藩が牛痘種痘法を試みたことが、全国的な普及のきっかけであるとされていますが、それより12年も前に中村が牛痘の接種に成功したとも言われます。

多くの人々を伝染病から救った画期的な方法が日本で初めて試されたのは、武雄だったと言えるかもしれません。

▲当時の種痘の様子がわかる「種痘法則」（武雄市蔵）

▲写真：中村が武雄にもたらした天球儀（武雄鍋島家資料）
中村は蘭学の導入にも貢献した。

▶▶Pick up

中村涼庵の足跡をたどってみよう！

中村涼庵旧宅
（武雄町新町）

中村の屋敷跡地。茂義の命により、新町のこの場所で開業。現在も子孫が暮らしている。

円応寺
（武雄町富岡 10513）

毎年 8 月 26 日には境内の若宮社（疱瘡の神様）と中村の功績を讃える祭りが行われる。

2018年は明治維新150周年です。

2018年に明治維新150周年を迎えるにあたり、武雄市では明治維新に関する市報での特集や武雄市図書館・歴史資料館での記念展示などを行う予定です。

今号の特集をきっかけに、現代日本の基盤を築いたかつての武雄の偉人たちに思いを馳せ、まち歩きに出かけませんか？

また、武雄市図書館・歴史資料館では、幕末・明治維新に関する書物を多数用意しております。お気軽にご相談ください。

武雄市図書館・歴史資料館
☎0954-20-0222